



“地域のことは地域で考えよう”

2016年2月25日

おきぎん県内景況・速報 2016年1月

— 県内景況は、拡大している —

■ 個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。

百貨店売上高は前年同月を上回る。

家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は下回る。

■ 建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。

生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

■ 観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。

ホテル稼働率は、シティホテル、ビジネスホテルが前年同月を上回り、リゾートホテルは下回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回る。

■ 企業倒産

件数は前年同月を下回り、負債総額は同水準。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2016年1月分)

◎2016年1月 おきぎん「カトリア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

1月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回りました。百貨店売上高は雑貨や食料品などが堅調で、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、冷蔵庫や洗濯機の売上増加などにより前年同月を上回りました。新車販売台数は軽乗用車需要の減少などから前年同月を下回りました。

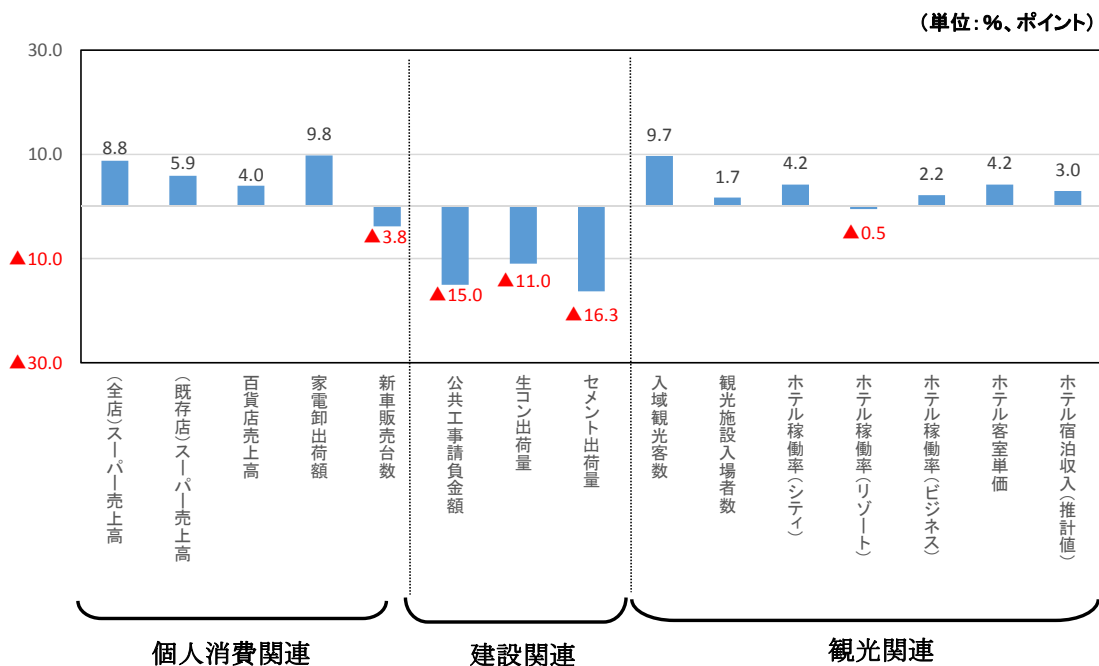
建設関連では、公共工事請負金額は、市町村や国発注による工事減少などで前年同月を下回りました。建設資材である生コンやセメントはともに前年同月を下回りました。

観光関連では、入域観光客数は40ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数も前年同月を上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、ビジネスホテルが前年同月を上回り、リゾートホテルは下回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から24ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比



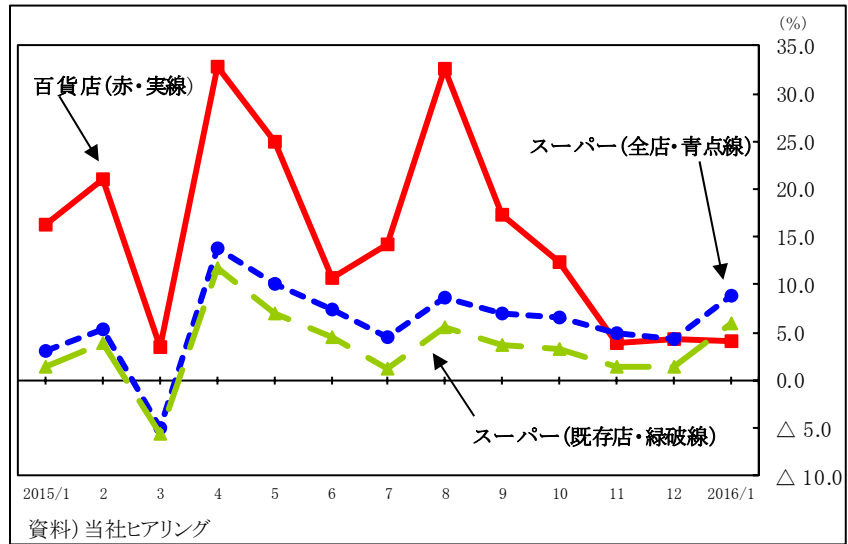


■ 個人消費: (やや良い)

①スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

単位:%

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2015/1	3.0	1.5	16.3
2	5.4	3.8	21.0
3	△ 5.1	△ 5.6	3.5
4	13.9	11.7	32.8
5	10.1	6.9	25.0
6	7.4	4.5	10.8
7	4.6	1.1	14.2
8	8.7	5.6	32.7
9	7.0	3.7	17.3
10	6.6	3.3	12.3
11	4.9	1.5	3.8
12	4.2	1.5	4.2
2016/1	8.8	5.9	4.0



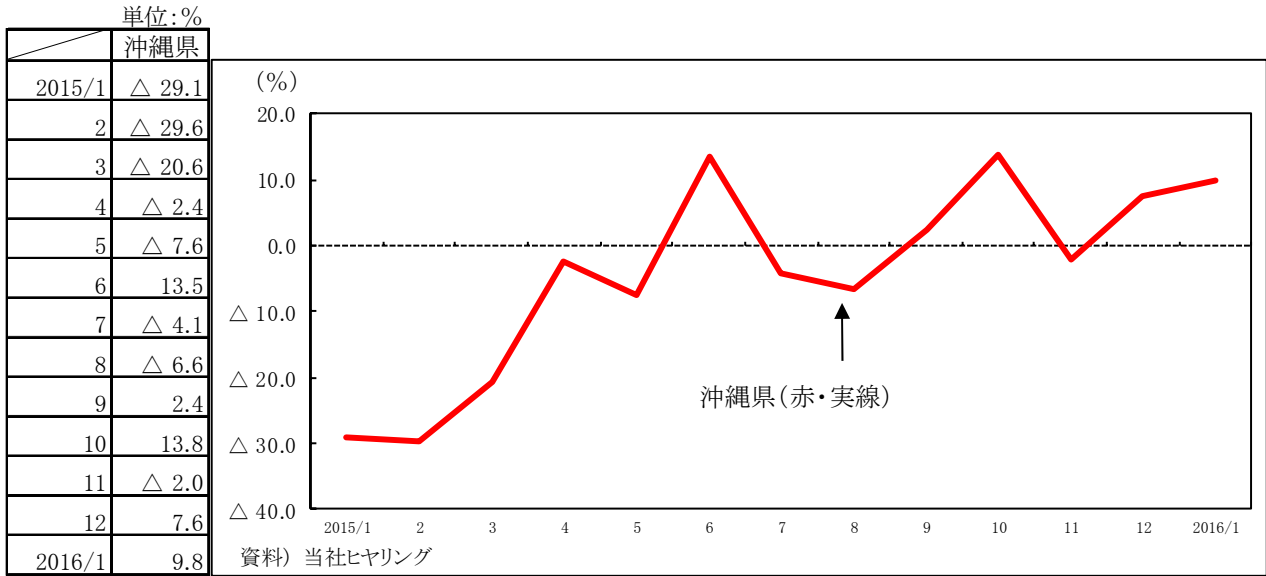
注2) スーパー売上高(既存店)については、2015年3月、4月データの誤差調整の後、修正を行なっております。本数値を参照の際には、最新のリリース情報をご覧ください。

1月の個人消費関連では、**スーパー売上高**は「**全店ベース(前年同月比 8.8%増)**」が10ヵ月連続で前年同月を上回りました。前年より日曜日が1日多いことや新規出店効果などによりウェイトの高い「食料品(同 7.9%増)」や家電を含む「家庭用品(同 12.1%増)」の売れ行きが好調で、前年同月を上回りました。

「**既存店ベース(同 5.9%増)**」は店舗改装による集客効果などから、10ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同 5.7%増)」は、生鮮全般(精肉・水産・青果)の売れ行きが堅調だったことなどから、前年同月を上回りました。家電を含む「家庭用品(同 7.4%増)」は初売り商戦などから白物家電(洗濯機・冷蔵庫など)やテレビの売れ行きが堅調だったほか、訪日観光客による雑貨需要(化粧品、小物類等)の増加などから、前年同月を上回りました。また、「衣料品(同 3.5%増)」は、一部、暖冬の影響がみられたものの、冬物衣料の売れ行きが堅調だったことなどから、前年同月を上回りました。

百貨店売上高(同 4.0%増)は、一部、暖冬の影響が「衣料品」などでみられたものの、前年より日曜日が1日多いことや催事開催による集客効果などから「雑貨」や「食料品」などの売れ行きが堅調で、前年同月を上回りました。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同 3.5%減)」は、セール企画を開催するものの、暖冬の影響などから主力商品である「婦人服(同 7.7%減)」の売れ行きが伸びず、前年同月を下回りました。一方で、「食料品(同 8.2%増)」は、新規テナント出店や催事開催などによる集客効果や、生鮮全般の売れ行きが堅調だったことなどから、前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 22.8%増)」や「身の回り品(同 6.5%増)」は継続的な訪日観光客需要や初売り商戦などにより売れ行きが好調で、前年同月を上回りました。

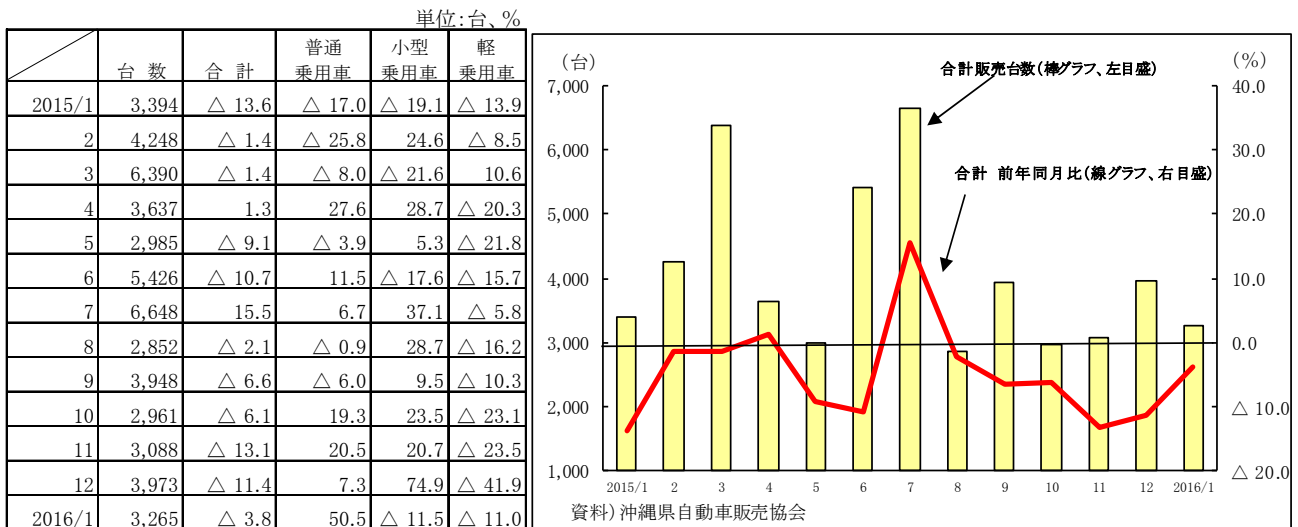
②家電卸出荷額…冷蔵庫や洗濯機の売上増加などにより、前年同月を上回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、冷蔵庫や洗濯機の売上増加などにより、2 ヶ月連続で前年同月を上回りました(同 9.8%増)。品目別では、「冷蔵庫(同 46.8%増)」、「洗濯機(同 15.6%増)」、「テレビ(同 7.9%増)」、「太陽光パネル(同 143.8%増)」などでは、前年落ち込んだ反動や新型商品効果などから売れ行きが堅調で、前年同月を上回りました。一方で、「エアコン(同 5.0%減)」は暖冬の影響などから売れ行きが伸びず、前年同月を下回りました。

③新車販売台数…軽乗用車需要の減少などから、前年同月を下回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

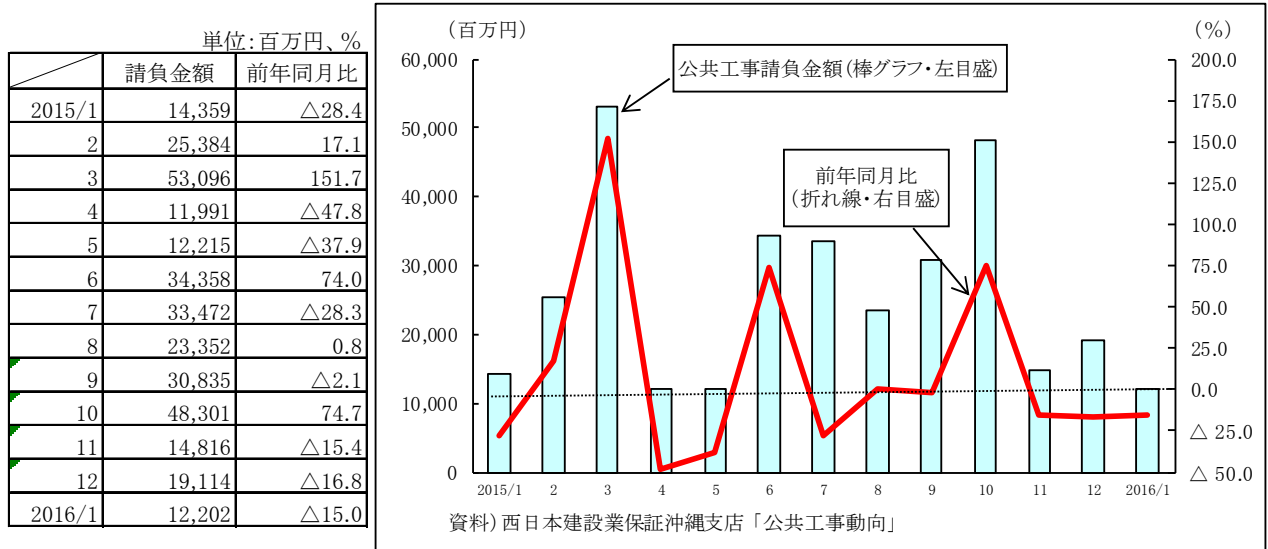
新車販売台数は、全体で3,265台(同 3.8%減)となり、軽乗用車需要の減少などから6 ヶ月連続で前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同 50.5%増)」は前年落ち込んだ反動などから4 ヶ月連続で上回ったものの、「小型乗用車(同 11.5%減)」は需要の落ち着きから7 ヶ月ぶり、「軽乗用車(同 11.0%減)」は軽自動車税増税の影響などから10 ヶ月連続で下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



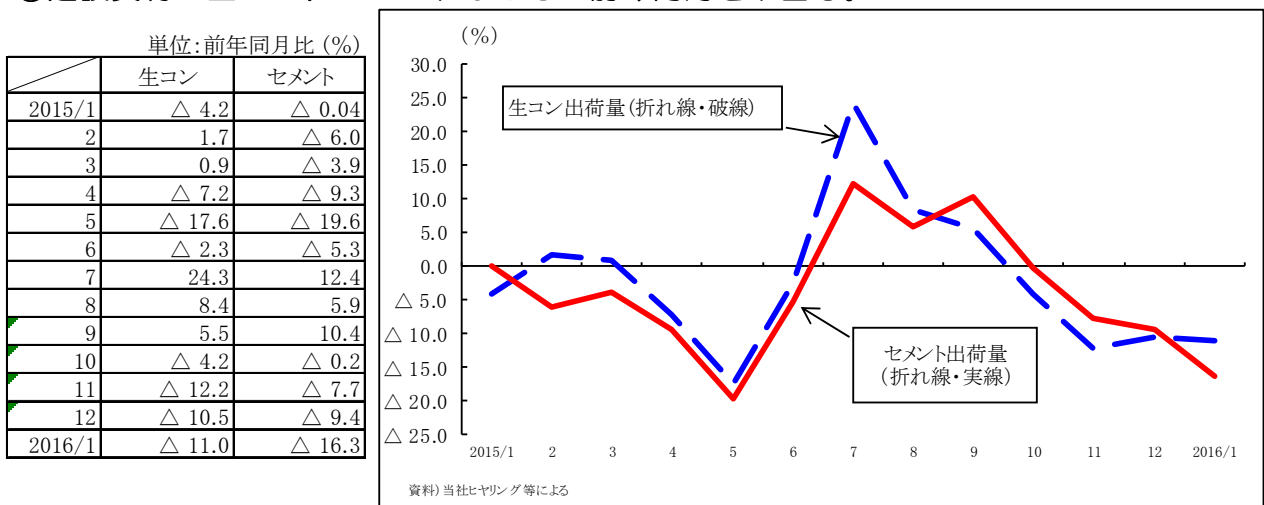
■ 建設関連: (やや良い)

①公共工事…公共工事請負金額は前年同月を下回る。



1月の公共工事請負金額は、前年同月比15.0%減の122億200万円となりました(3ヵ月連続減)。発注者別でみると、「独立行政法人等(同57.7%増)」は前年の水準が低かったこと、「沖縄県(同19.6%増)」は都市モノレール関連工事など、「その他の公共的な団体(同38.9%増)」は那覇港総合物流センター新築工事などの大型工事があり、前年同月を上回りました。一方、「国(同30.1%減)」は前年あった沖縄防衛局関連で宮古島局舎新設新築工事などの反動、「市町村(同30.1%減)」も前年の小中学校関連工事などの反動により、前年同月を下回りました。

②建設資材…生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

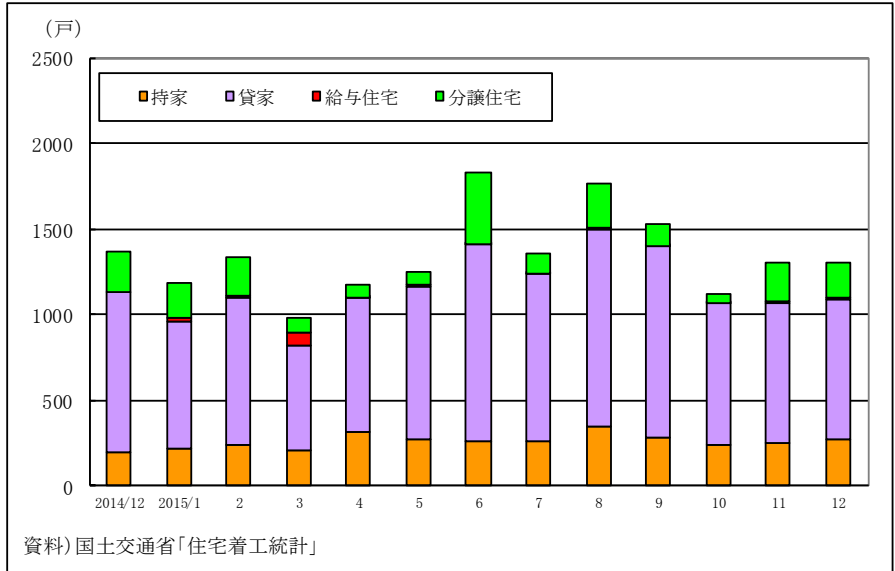


(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、**生コン**の出荷量は11.0%減少し4ヵ月連続で前年同月を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より1.7%上回ったものの、民間工事向け出荷も19.1%下回りました。**セメント**出荷量も16.3%減と4ヵ月連続で前年同月を下回りました。

【参考】住宅投資(12月)…着工戸数は前年同月を下回る。

単位:戸、%		
	着工戸数	前年同月比
2014/12	1,368	△4.8
2015/1	1,181	10.9
2	1,338	3.1
3	980	△36.4
4	1,172	△17.3
5	1,254	12.4
6	1,828	27.7
7	1,362	16.2
8	1,764	19.0
9	1,527	17.4
10	1,118	9.8
11	1,306	7.4
12	1,306	△4.5



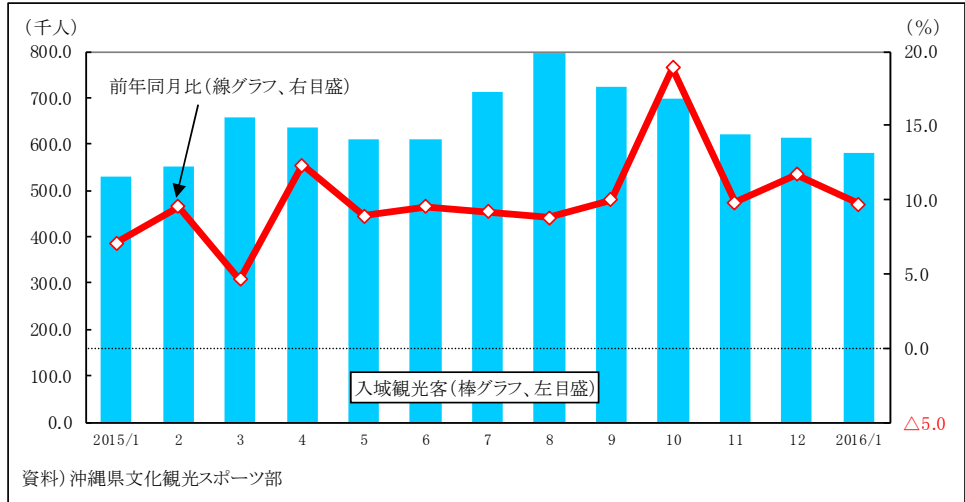
新設住宅着工戸数(12月)は、全体で前年同月比4.5%減の1,306戸と8ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、「持家(同38.7%増)」が前年同月を上回ったものの、ウェイトの高い「貸家(同12.3%減)」や「分譲住宅(同12.0%減)」などが下回りました。



■観光関連: (良い)

①入域観光客数(国内客・外国客の合計)…40ヵ月連続で前年同月を上回る。

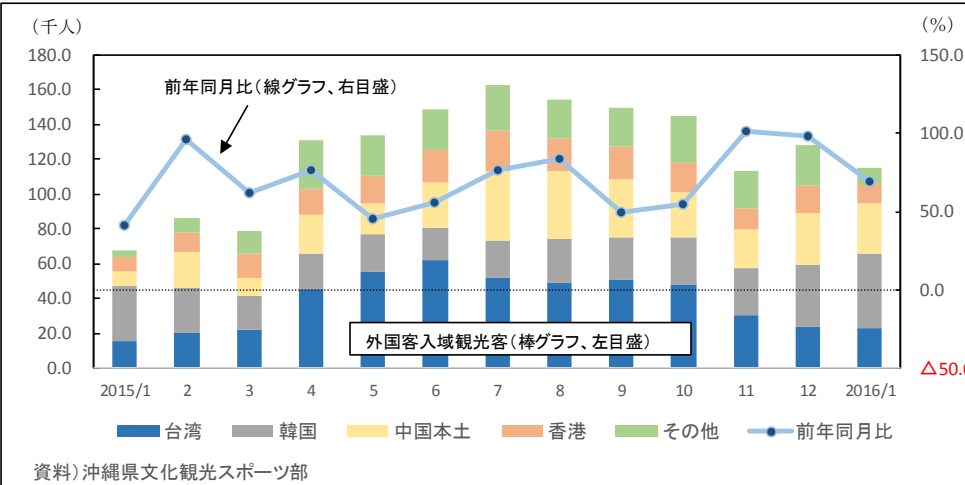
単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2015/1	530.1	7.1
2	550.9	9.5
3	659.0	4.6
4	635.4	12.3
5	611.4	8.9
6	610.0	9.5
7	714.0	9.2
8	797.5	8.8
9	724.7	10.0
10	696.8	18.9
11	619.6	9.8
12	613.6	11.7
2016/1	581.6	9.7



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数…30ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2015/1	67.9	41.2
2	86.7	95.7
3	79.0	62.2
4	130.6	76.7
5	133.7	45.8
6	149.2	56.2
7	163.0	76.6
8	154.7	83.7
9	149.6	49.7
10	145.1	54.7
11	113.4	101.1
12	128.3	98.3
2016/1	114.9	69.2



※外国客は乗務員等を含む

1月の入域観光客数は、51,500人多い581,600人(前年同月比9.7%増)となり、40ヵ月連続で前年同月を上回りました(1月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同1.0%増)」は466,700人と、年末年始の日並びの影響により昨年よりも連休が短い傾向にあったものの、航空路線の拡充(伊丹-那覇、関西-石垣等)や成人の日を含む三連休が好調だったことなどから、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同69.2%増)」は、114,900人と30ヵ月連続で前年同月を上回りました。航空路線の拡充(中国本土路線の増便、韓国LCC新規就航等)や、クルーズ船の寄港回数増加等により空路・海路ともに好調に推移し、前年同月を上回りました。

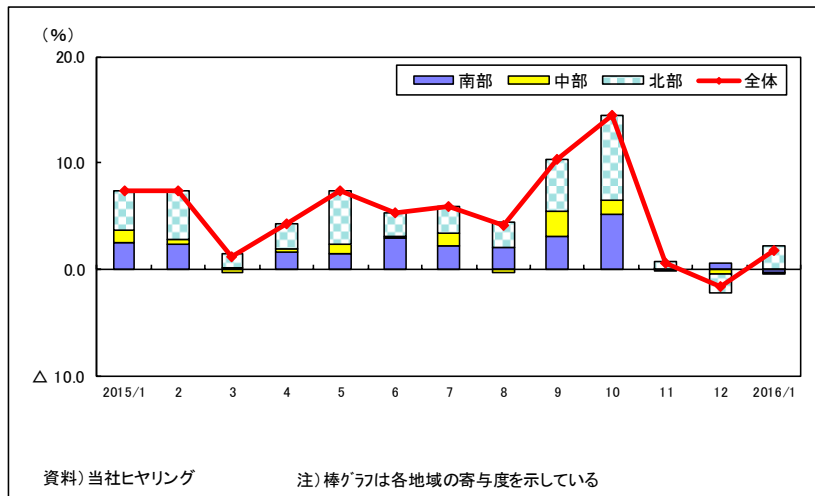
「台湾(同49.7%増)」「韓国(同35.8%増)」「中国本土(同238.8%増=約3.4倍)」「香港(同28.9%増)」

※乗務員等を除く2016年1月実績=全体577,300人(同9.0%増)、外国客110,600人(同63.9%増)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数…2ヵ月ぶりに前年同月を上回る。

	入場者数(前年同月比)				単位: %
	全体	南部	中部	北部	
2015/1	7.3	6.5	8.7	7.6	
2	7.4	6.2	3.1	9.5	
3	1.1	0.2	△ 2.2	2.9	
4	4.3	4.2	2.1	5.1	
5	7.3	3.4	7.0	10.9	
6	5.3	7.4	1.8	4.3	
7	6.0	6.4	10.1	4.8	
8	4.1	6.3	△ 2.7	4.3	
9	10.3	8.7	21.4	9.0	
10	14.4	12.7	9.8	17.2	
11	0.6	△ 0.4	0.3	1.7	
12	r △ 1.6	r 1.4	△ 3.6	△ 3.8	
2016/1	1.7	△ 0.8	△ 1.4	4.6	

*調査対象施設数＝南部6、中部6、北部5施設



観光施設入場者数は、全体で前年同月より1.7%増加(2ヵ月ぶり)しました。地域別にみると、北部は同4.6%増と2ヵ月ぶりに前年同月を上回り、南部にある観光施設は同0.8%減と2ヵ月ぶり、中部は同1.4%減と2ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ホテル稼働率…シティホテル、ビジネスホテルは前年同月を上回り、リゾートホテルは下回る。

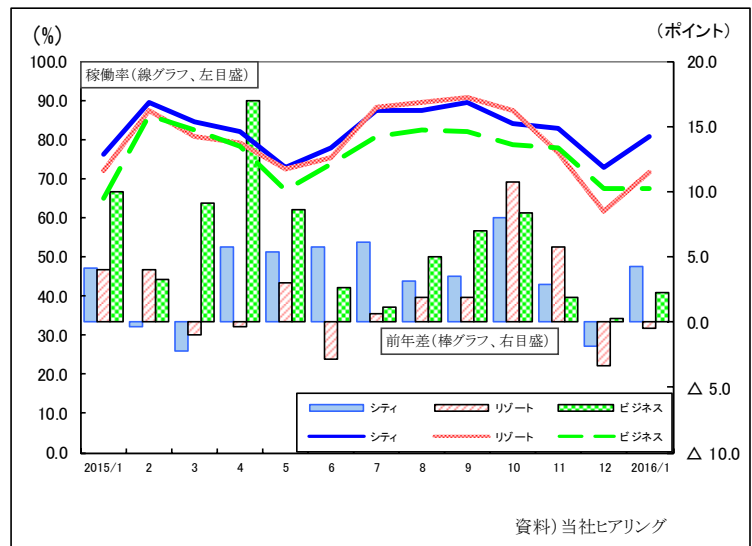
	稼働率			前年同月差			単位: %、ポイント
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス	
2015/1	76.3	72.0	65.1	4.1	4.0	10.0	
2	89.5	87.4	86.1	△ 0.3	4.0	3.2	
3	84.6	80.6	82.4	△ 2.2	△ 1.0	9.1	
4	82.1	79.1	78.1	5.8	△ 0.4	16.9	
5	72.9	72.4	67.1	5.4	3.0	8.6	
6	78.0	75.3	73.6	5.8	△ 2.9	2.6	
7	87.2	88.3	80.6	6.1	0.6	1.1	
8	87.5	89.4	82.2	3.1	1.9	5.0	
9	89.3	90.7	82.1	3.5	1.9	7.0	
10	83.9	87.3	78.6	8.0	10.7	8.4	
11	82.9	76.7	77.6	2.9	5.7	1.9	
12	72.8	61.5	67.4	△ 1.8	△ 3.3	0.3	
2016/1	80.5	71.5	67.3	4.2	△ 0.5	2.2	

注)シティ9ホテル、リゾート19ホテル、ビジネス7ホテル

注)2015年10月より、シティホテル対象施設数が変更(10⇒9)と

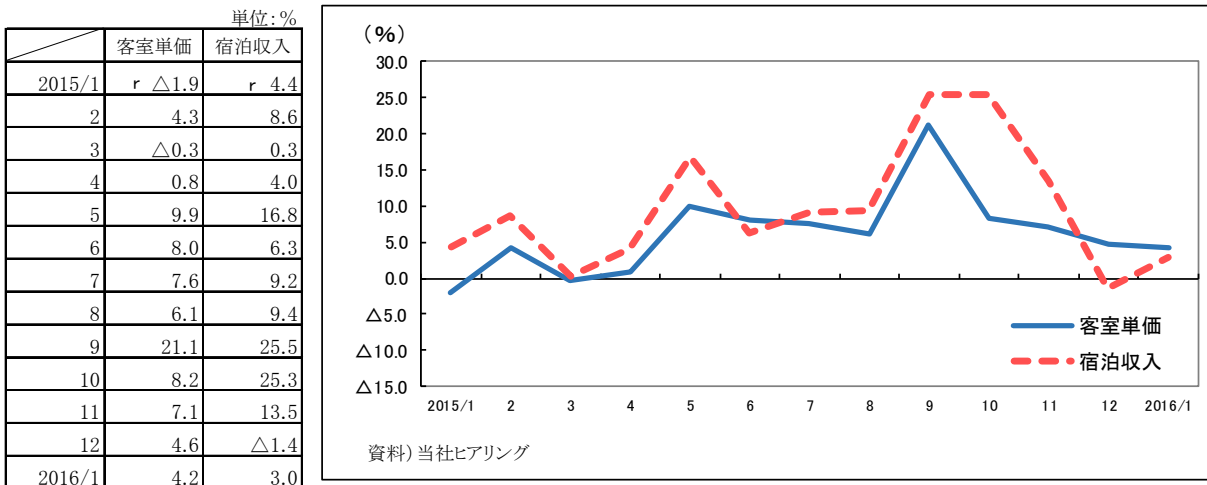
なったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

*公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。



県内ホテル稼働率は、シティホテルが80.5%と4.2ポイント上昇(2ヵ月ぶり)、リゾートホテルが71.5%と0.5ポイント減少(2ヵ月連続)、ビジネスホテルが67.3%と2.2ポイント上昇(27ヵ月連続)しました。

④ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入も上回る。



※対象施設数:28施設(シティ9、リゾート19)、ビジネスは除く

※客室単価は28施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2015年10月より、シティホテル対象施設数に変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする

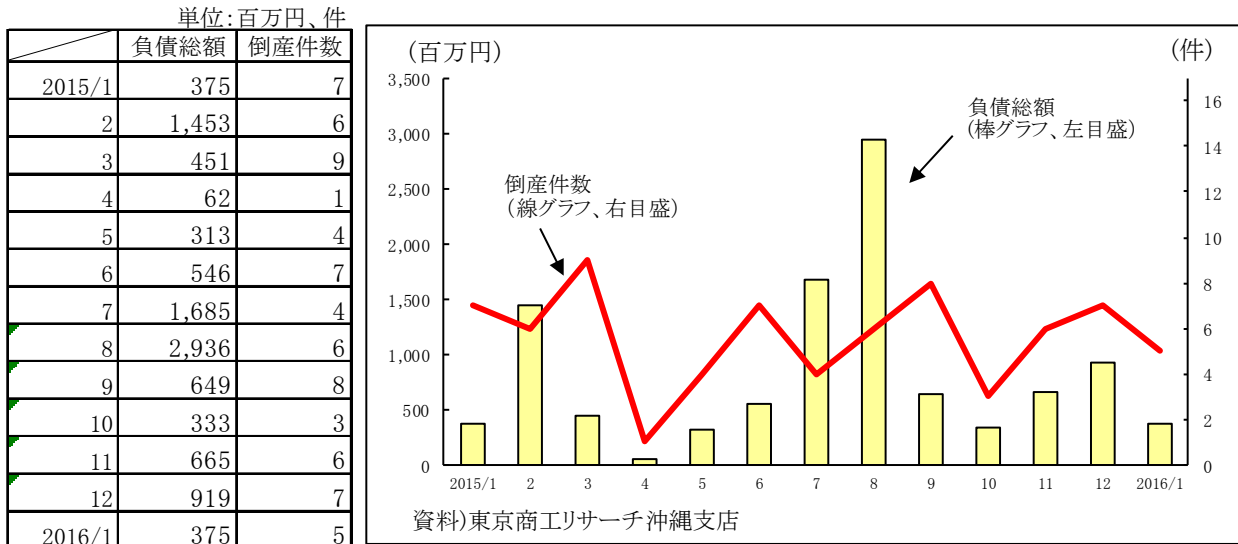
※2014年4月指標より新たに掲載

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 4.2%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**も同3.0%増と前年同月を上回りました。



■企業倒産: (ふつう)

企業倒産…件数は前年同月を下回り、負債総額は同水準。

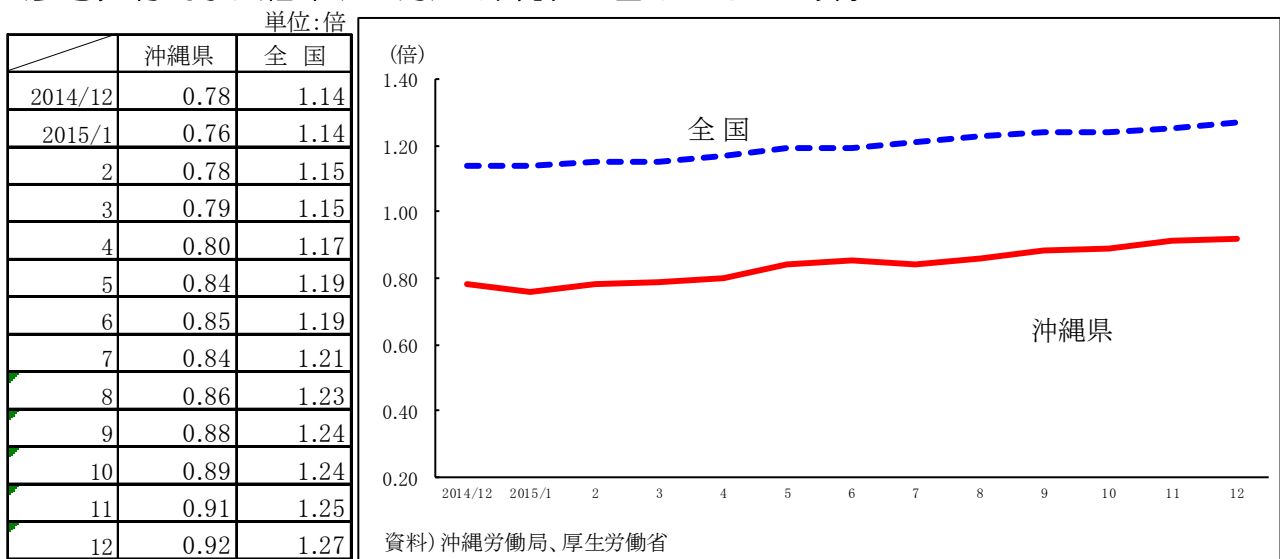


1月の企業倒産件数は、5件(うち、1億円以上の大口倒産は3件)発生し前年同月より2件少なく、負債総額は3億7,500万円の前年同月と同水準となりました。



【参考】雇用関連: (良い)

(参考) 有効求人倍率(12月)…沖縄、全国はともに上昇。



注) 季節調整済

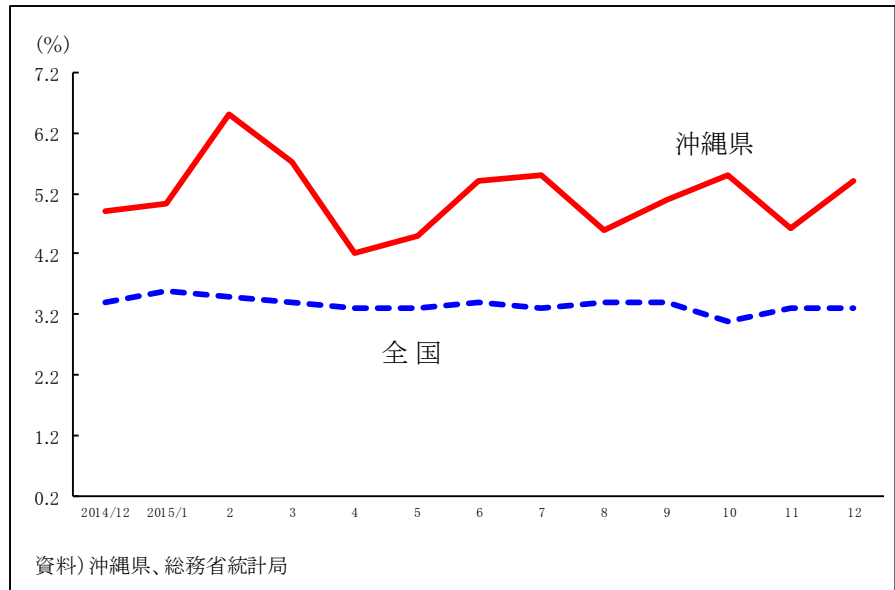
注) 季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

12月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比1.5%増の25,816人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.01%減の27,944人となり、有効求人倍率(季節調整値)は0.92倍となり前月より0.01ポイント上昇しました。

(参考) 完全失業率(12月)…前月より上昇。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2014/12	4.9	3.4
2015/1	5.0	3.6
2	6.5	3.5
3	5.7	3.4
4	4.2	3.3
5	4.5	3.3
6	5.4	3.4
7	5.5	3.3
8	4.6	3.4
9	5.1	3.4
10	5.5	3.1
11	4.6	3.3
12	5.4	3.3

注) 季節調整済



12月の完全失業率(季節調整値)は、5.4%となり前月より0.8ポイント上昇しました。